

9月22日、角館町から北秋田市鷹巣までを走破する「2019北緯40度秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン」が開催されました。100キロの部には県内外から963人が出場、まだ暗い夜明け前の午前4時30分に角館交流センターをスタート。また、353人が出場した50キロの部は、北秋田市阿仁農村環境改善センター近くを10時30分にスタートし、100キロの部と同じ北秋田市鷹巣のゴールを目指しました。

ランナーたちは、時折小雨が降る中、すっかり秋の景色となった道のりを自分のペースを確認しながら快走していました。

治道では住民が「頑張れ」などと声援を送りながら選手とハイタッチしたり、コースに設営されたエイドステーションでは、スタッフが飲み物などを立ち寄ったランナーに渡しながら激励する姿が見られました。

100キロ チャレンジマラソン

それぞれの目標に向かって



暗い中、角館交流センター前を一斉スタート。

栄光 ～輝くとき

わたしの主張 2019

ー 第41回少年の主張秋田県大会 ー

鈴木未来さん(西明寺中3年)が優秀賞

9月18日、秋田南中学校(秋田市)で開催された「わたしの主張2019ー第41回少年の主張秋田県大会ー」に出場した西明寺中学校の鈴木未来さん(3年)が見事優秀賞を手にしました。

同大会は、中学生に物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身につけてもらうと行われているもので、全県から地区大会を勝ち上がった13人が出場しました。

9月5日に大仙市中仙市民会館「ドンパル」で開催された県南地区大会での優秀賞を経て全県大会への出場となった鈴木さんは、「それって悪なの?」をテーマに、たばこ農家の訪問をきっかけとして自分の身近にある物ごとについて、思い込みで良し悪しを決めず、立ち止まって考えてみることを大切さを訴えました。

鈴木さんは「全県大会は落ち着いて発表することができたが、受賞でき



左から布谷英司校長、鈴木未来さん、指導にあたった後藤春子先生、熊谷教育長。

るとは思っていなかったのびつくりした。自分の考えを発表する力をつけることができた」と話しました。

ロフィーを手にしたとき、その重みを感じた」と話しました。

第71回大曲仙北中学校英語暗唱弁論大会

佐藤大空さん(神代中3年)が最優秀賞

8月29日、美郷町公民館で開催された「第71回大曲仙北中学校英語暗唱弁論大会」で神代中学校の佐藤大空さん(3年)が弁論の部で最優秀賞に輝きました。

中学生の英語の上達や国際親善などを目的に行われるこの大会は、自分の意見や主張を制限時間5分以内にスピーチし、その英語能力や弁論の内容を審査します。

ゴミのポイ捨てや川に

家電製品が廃棄されている光景を目の当たりにした実体験をもとに、Littering is illegal(ポイ捨ては違法だ)と題して、自分の感じたことや考えを発表した佐藤さん。夏休み前からALT(外国語指導助手)の先生と一緒に練習に励んだそうです。

大会を振り返って佐藤さんは「最優秀賞をもらうことができたとは思っていませんでした。表彰式でト



左から木元哲校長、佐藤大空さん、熊谷教育長。



一般の部で最優秀賞に輝いた吉田友音さん。



年少者の部で最優秀賞に輝いた伊藤泉美さん。

9月21日と22日の2日間、仙北市民会館で第34回生保内節全国大会が開催され、日頃の練習で鍛えられた自慢の歌声が響きわたりました。

今大会には一般の部に109人、年少者の部に23人がエントリー。

一般の部は21日に予選が行われ、22日に40人による準決勝を経て、10人が決勝に進みました。その結果、吉田友音さん(西木町・六郷高校2年)が最優秀賞に輝きました。

吉田さんが民謡を始めしたのは小学校1年生。手踊りの先生に勧められ、やっ

てみたらこぶしがうまくついた時が楽しかったとのこと。第29回の同大会では年少者の部で最優秀賞に輝き、今回の一般の部に出場するのは初めてです。

「準決勝では歌詞を間違えないかなと考えて緊張でバクバクだった。決勝では慣れてきて緊張はしなかった。やわらかく歌うことを意識したけどあまり自信はなかった。最優秀賞と発表されてとてもびつくりしている」と話しました。

中学生以下の年少者の部には、伊藤泉美さん(男

鹿市・北陽小学校5年)が最優秀賞に輝きました。他の入賞者は次のとおりです。《敬称略》

【一般の部】

▼優秀賞Ⅱ佐々木深里(岩手県紫波町)、大川あけみ(秋田市)、佐藤正太郎(大仙市)、高橋さとみ(由利本荘市)

▼敢闘賞Ⅱ永沢梅子(秋田市)、小松博美(仙北市)、谷川未采(八郎潟町)、中村清治(美郷町)、高橋惇(由利本荘市)

【年少者の部】

▼優秀賞Ⅱ田口理椰(仙北市)、阿部桜子(秋田市)、藤井彩花(男鹿市)

思い出を振り返って

中川小学校で閉校記念イベント



みんなでついたお餅を美味しくいただきました。

9月22日、来年3月で144年の歴史に幕を閉じる中川小学校で閉校記念イベントが行われました。

餅つきでは、全校生徒が杵を持って力強く餅つきを行ったあと、各地区ごとに分かれ、当時の思い出話を花を咲かせながら昼食を楽しみました。

その後、グラウンドで小学生をはじめ、職員や地域の方と「中川小」という人文字を描き、ドローンを活用して空撮の記念撮影を行いました。

スライド上映では、中川小学校の144年のあゆみを鑑賞。当時の歴史や思い出を振り返りました。最後は正門前で「宇宙桜(そら



きれいな桜の花が咲くことを願って心を込めて植えました。

ざくら)の記念植樹」を行いました。これからの子どもたちの夢と共に、宇宙を旅してきた桜が花をつけるまでには長い年月がかかります。植樹は、全校生徒に桜を温かく見守ると同時に、桜の苗を大切に育てることを通じて命の大切さ、地域への感謝、家族や友だちへの思いやりの気持ちも育ってほしいとの実行委員会の願いが込められています。

実行委員長である堀井英和さんは「中川小生や参加している方の記憶に残り、中川小学校に対して感謝するイベントにしたい。小学校がなくなると寂しくなり、地域の方と交流する機会は減るかもしれない。しかし、だからこそこれからはより一層、周りの方と地域の活性化を目指していきたい」と話しました。

9月20日、富永愛さん（角館町川原）が100歳の誕生日を迎えられ、介護付有料老人ホームさわか桜館でお祝いが行われました。



前列中央が愛さん。

おめでとう

ぎゅいす

百寿



中央がトクエさん。

9月20日、松橋トクエさん（角館町川原町）が100歳の誕生日を迎えられ、介護老人保健施設田沢の郷でお祝いが行われました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



クラフト市を開催します！ 折笠靖子



力加減が難しい布ぞうりづくりに挑戦！

皆さん、こんにちは。段々と寒くなってきた、山々もそろそろ赤や黄色に色づいてくる季節ですね。埼玉に住んでいた頃は、休みの日に家から1、2時間かけて紅葉を見に行っていました。仙北市に来て早2年が過ぎました。ここでは通勤途中に紅葉を楽しめ、なんとお驚沢な毎日です。

10月26日(土)、27日(日)に内陸線の乗車促進策の一環として、上桧木内でクラフト市「ぎねずみたちの手づくり市場」を開催することになりました。私はきねずみの会事務局として活動しています。内陸線でご来場いただいた方には、内陸線のポストカードをプレゼントします。

会場が紙風船館内なので、こじんまりとしたあたたかいクラフト市を目標に、全国からプロのクラフト作家さんを募集しました。さらに、クラフト作家さんの作品と共に、布ぞうり、かごバッグ、紙風船をモチーフにしたアクセサリーといった、地元の方々手作りの品物を集めて販売します。実は、私も作れるかなと思います。

ラフトバッグや布ぞうりを地域の方に教えていただき挑戦しましたが、布ぞうりは、力加減が難しく全然うまくできませんでした（もともと不器用です）。これは昔、わらで編んでいた実用的なものだそうです。この布ぞうりには感動です。履き心地もいいし、美容や健康によいとされていて私も愛用しています。

仙北市の産業祭と同日開催です。少し足を延ばしてぜひ紙風船館にも遊びに来てください。



詳しくは、16ページのおしらせナビをご覧ください。

市長の まちづくり No.159 日記

『それぞれの精いっぱい』

仙北市長 門脇 光浩

平成27年6月に示した仙北市庁舎整備基本構想は、合併後の長い議論の結論として、統合庁舎の必要性を明らかにしたものでした。利便性、財政状況、防災、まちづくりなどの視点から多くの検討を重ね、旧角館病院跡地を新庁舎の所在地として選定した内容です。しかし市議会はこの場所に難色を示して独自検討に入り、JR角館駅前の商用地を最適地として選定します。この案は市議会特別委員会では可決、ところが後日の本会議で否決となり、当時に描いた統合庁舎への道筋は閉ざされました。

にも百論ありました。しかし市議会にはこれを認めていただき、二度にわたる入札不調を経て、現在、角館交流センター！健康管理センターの一角で工事が進行中です。この後は、耐震化が必要な田沢湖庁舎（議会・総務部門）と西木庁舎（教育委員会・各種団体事務局）の改修に着手する予定になっています。

私は、角館庁舎（現庁舎）の老朽化が著しいため、来庁する市民や職員の安全対策が急務と判断し、新・角館庁舎の建設を模索しました。その思いを平成29年4月に示した庁舎整備基本構想に投影しています。それまでの統合庁舎の議論で明らかになっていた人口減少社会への対応、また抜き差しならない財政事情や経済情勢を考えて、将来市民のお荷物にならないよう、できるだけ部署・人員を集約したコンパクト庁舎をイメージしました。皆さん「記憶にある通り、この構想

平成27年に示した構想も、平成29年の構想も、議会や市民の皆さんと徹底議論がありました。現在の庁舎工事は、それぞれの場面と立場で、市民と議会と市が探り出した答えです。でも万全ではありません。手にした答えはいつだって未完なもの。それを理解し、貪欲によりよい手法を求め続けることが、成長の原動力になります。

庁舎問題に限らず、新たな挑戦には産みの苦しみが付いて回ります。答えに辿り着けたと思っても、すぐ新たな課題に直面します。でも大丈夫。市民を信じ、市民と一緒によりよい手法を探り出せばよいのです。周囲を思いやりそれぞれの立場で精いっぱい尽くすことが、最善を手にできる唯一です。

かくのだてフィルムコミッション ロケーションだより Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション (仙北市観光課内) ☎43-3352 <https://kakunodate-fc.jp/>

まもなく紅葉のシーズンを迎える仙北市には、各方面から撮影の申し込みが届き始めています。

9月は、関西テレビ放送の番組「よいドン！」のロケ支援を行いました。「よいドン！」は、毎週月曜日から金曜日の朝9時50分から11時15分まで放映されている人気の生放送情報番組です。

「とんでとんで」のフレーズが印象に残る「夢想花」という曲がヒットしたシンガーソングライターでタレントの円広志さんが番組の進行役を務めており、たむらけんじさん、石原良純さん、ロザン、ハイヒールモモコさん、織田信成さんなどのパネラーが日替わりで出演しています。

この番組内に「いきなり！日帰りツアー」という人気のコーナーがあり、関西ローカル番組でたくさんレギュラーを抱える、たむらけんじさんが街で初めて会った人に声をかけ、

け、日帰りツアーで様々な場所へ向かうという内容です。なんと今回は、「仙北市」がロケ地に選ばれ、抱返り溪谷で撮影が行われました。ロケの参加者は、たむらけんじさん、一般の方、カメラマンなどスタッフが合わせて8人でした。かくのだてフィルムコミッションは、ロケハンと当日の撮影に同行しました。また、関西からロケバスを使って移動してきましたので、抱返り溪谷内の神代側駐車場から白岩側駐車場までの移動がスムーズになるように誘導しました。赤いつり橋「神の岩橋」でも撮影が行われ、一般の参加者もコバルトブルーに輝く溪流の眺めに満足げでした。残念ながら、秋田では番組が放送されませんが、抱返り溪谷の眺望のすばらしさが番組内で伝わることを切に願います。また、この番組で紹介されることで、関西方面からたくさんの方が仙北市を訪れていただければと思います。

(会長 坂本 洋)



緑に映える赤いつり橋での撮影風景。